

発売たちまち重版!!

講談社エディトリアル・新刊のご案内

美甘章子 著

8時15分

ヒロシマで生きぬいて許す心



「何かをなくしたときは、何かを得るときだ」

至近距離で被爆しながらも生存している

数少ない生き証人である父——

その静かで、壮絶な物語。

- 四六判・上製・224 ページ
- 定価：本体 1,500 円 (税別)
- ISBN978-4-907514-08-2

1945年8月6日午前8時15分、広島上空でピカドン＝原子爆弾が炸裂した。瀕死の重傷を負った父子は、地獄絵さながらの街をさまよい歩く。やがて父を亡くして生き延びた息子は、しかし、怒りと絶望のさなかにも「許す心」を見出し、過去よりも未来を見つめて歩み始める——。来年で被爆後70年！本書は、被爆地においてさえ風化しつつある原爆体験を「共感」という新たな視点から問い直した、貴重で感動的な記録です。

〔著者と本を多数のメディアが紹介〕

- ▶ 広島ホームテレビ「Jステーション」6月28日放送
- ▶ テレビ新広島「スーパーニュース」6月30日放送
- ▶ NHK広島放送局「ひるまえ直送便」6月30日放送
- ▶ 中国新聞記事(6月30日): 広島市内の小中学校で講演する著者と本を紹介
- ▶ 朝日新聞「BOOK TIMES」(8月20日)著者インタビュー掲載予定

著者●美甘章子 (みかも・あきこ)

1961年、広島市生まれ。両親とも被爆者で、幼いころから原爆と戦争の悲惨さを身近に感じて育つ。広島大学教育学部卒業後、アメリカに渡り、カリフォルニア心理学専門大学院（現アラバマ国際大学）サンディエゴ校で多文化臨床心理学を学ぶ。現在、心理学博士として「US-Japan サイコロジカル サービス」代表、「サンディエゴ・ウィッシュ：世界平和を願う会」代表を務め、世界の平和とヒューマニティーの向上を目指す活動を続けている。